

学校法人昭和学院 平成24年度 事業報告書

I. 法人の概要

1. 建学の精神

1940（昭和15）年に創立された本学院は、本年1月をもって創立73周年を迎えました。

創立にあたり掲げた建学の精神「明敏謙讓」は、いつの時代にあっても不易のものです。

これまでに本学院を巣立っていった4万人余の卒業生は、実社会で活躍しています。今後も、本学院は、建学の精神に基づく人間性豊かな人材の育成を推進し、さらなる飛躍を期していきます。

2. 学校法人の沿革

昭和15年	1月	昭和女子商業学校（修業年限4年）設置認可、同年4月1日開校（学制改正により昭和24年3月31日廃止）
21年	3月	専門学校令により昭和女子専門学校（修業年限3年 経済科、被服科）設置認可、同年4月1日開校。（学制改正により昭和26年3月31日廃止）
22年	5月	昭和学院中学校設置認可、同日開校、現在に至る。
23年	3月	昭和学院高等学校（全日制普通科、商業科）設置認可、同年4月1日開校、現在に至る。
24年	12月	昭和学院小学校設置認可、同25年4月1日開校、現在に至る。
25年	3月	昭和学院短期大学（修業年限2年 国文科、被服科）設置認可、同年4月1日開学、現在に至る。
26年	2月	学校法人昭和学院設立認可。
33年	3月	昭和学院栄養学校（修業年限2年 栄養士養成科）設置認可、同日厚生大臣より栄養士養成施設として指定される。（現在に至る）同年4月1日開校。
42年	3月	昭和学院幼稚園設置認可、同年4月1日開園、現在に至る。
43年	2月	昭和学院栄養科学研究所開設、現在に至る。
51年	3月	昭和学院栄養学校組織変更（専修学校専門課程）認可、昭和学院栄養専門学校と校名を変更する。
56年	4月	昭和学院短期大学学生定員変更（国文科100名を200名に、被服科100名を160名に）
58年	3月	昭和学院秀英高等学校（全日制普通科、男女）設置認可、同年4月1日、千葉市美浜区若葉1丁目に開校、現在に至る。
60年	3月	昭和学院秀英高等学校附属中学校（男女）設置認可、同年4月1日開校。
平成5年	4月	昭和学院短期大学被服科を生活文化科と科名変更。
6年	6月	昭和学院高等学校商業科を廃止。
8年	4月	昭和学院秀英高等学校附属中学校を昭和学院秀英中学校と校名変更。
11年	4月	昭和学院短期大学国文科を日本語日本文学科と科名変更。
11年	4月	昭和学院高等学校収容定員変更（2160名を1800名に）。
11年	12月	昭和学院短期大学にヘルスケア栄養学科設置認可、同12年4月1日開設。

13年	3月	昭和学院栄養専門学校を廃止。(平成13年3月28日、千葉県知事認可)
13年	4月	昭和学院幼稚園収容定員変更(300名を270名に)。
14年	4月	昭和学院小学校収容定員変更(540名を480名に)。
14年	10月	昭和学院短期大学に人間生活学科設置認可、同15年4月1日開設。
15年	4月	昭和学院高等学校収容定員変更(1,800名を1,200名に)、同時に男女共学化を実施。
15年	4月	昭和学院中学校収容定員変更(1,080名を600名に)、同時に男女共学化を実施。
16年	4月	昭和学院短期大学生活文化科、日本語日本文学科を廃止。
17年	4月	昭和学院短期大学の男女共学化を実施。
	4月	昭和学院短期大学が財団法人短期大学基準協会会員となる。
18年	4月	昭和学院高等学校収容定員変更(1,200名を960名に)。 昭和学院中学校収容定員変更(600名を432名に)。 昭和学院秀英高等学校収容定員変更(675名を720名に)。 昭和学院秀英中学校収容定員変更(540名を480名に)。 昭和学院幼稚園収容定員変更(270名を180名に)。 昭和学院新キャンパス計画着手
20年	4月	昭和学院小学校校舎完成
	7月	秀英中学校高等学校中央棟新築完成
	12月	昭和学院中学校高等学校校舎棟1期工事完成
21年	2月	伊藤記念ホール新築落成
	10月	短期大学附属栄養科学研究所落成
22年	3月	昭和学院中学校高等学校校舎棟2期工事完成 昭和学院短期大学新学生センター落成
	4月	人間生活学科人間発達専攻をこども発達専攻に専攻名変更
	6月	新体育館新築落成
	9月	昭和学院新キャンパス落成
	10月	昭和学院創立70周年記念式典挙行
23年	4月	人間生活学科生活文化専攻を生活クリエイション専攻に専攻名変更

3. 設置する学校・学部・学科等

- (1) 昭和学院短期大学(昭和25年度開設) 男女共学
人間生活学科 生活クリエイション専攻
こども発達専攻
ヘルスケア栄養学科
- (2) 昭和学院高等学校(昭和23年度開設) 全日制、男女共学、普通科
- (3) 昭和学院秀英高等学校(昭和58年度開設) 全日制、男女共学、普通科
- (4) 昭和学院中学校(昭和22年度開設) 男女共学

- (5) 昭和学院秀英中学校(昭和60年度開設) 男女共学
- (6) 昭和学院小学校(昭和25年度開設) 男女共学
- (7) 昭和学院幼稚園(昭和42年度開設) 男女共学

4. 役員概要 (平成24年5月1日現在)

役員 9名 (理事 7名、監事 2名) 定員数 理事 7名、監事 2名

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	山本 徹	理事	水野 正子	理事	井上 俊彦
理事	辻野 史朗	理事	畑江 敬子	監事	銭谷 眞美
理事	加藤 丈夫	理事	山崎 一男	監事	竹内 清海

5. 評議員概要 (平成24年5月1日現在)

評議員 15名、定員数 15名以上～21名以内

氏名			
桑村 典子	井上 俊彦	工藤 啓子	加藤 丈夫
山崎 一男	山崎須美子	辻野 史朗	八田 吉浩
山口 敏子	太田 ふじ	山本 徹	伊藤 アヤ
齋藤 紀子	水野 正子	畑江 敬子	

6. 教職員概要 (平成24年5月1日現在)

	教員職	事務職	計	非常勤
短期大学	28	8	36	31
高等学校	63	9	72	23
中学校	28	1	29	4
小学校	23	0	23	7
幼稚園	9	0	9	4
秀英高等学校	52	5	57	8
秀英中学校	35	2	37	7
合計	238	25	263	84

II 事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

1. 特記事項

- (1) 昭和学院短期大学
 - ・平成 26 年度から人間生活学科こども発達専攻の定員変更を文部科学省及び厚生労働省に申請（入学定員 50 名→60 名）
 - ・第 2 回目の第三者評価（認証評価）を平成 25 年度に受けるための準備
 - ・国際交流の第 1 歩として台湾実践大学と交流協定締結
- (2) 昭和学院高等学校
 - ・臨時入学定員の受け入れ（40 名増、320 名→360 名）平成 25 年度も引き続き受け入れ
- (3) 昭和学院秀英高等学校
 - ・臨時入学定員の受け入れ（40 名増、240 名→280 名）平成 25 年度も引き続き受け入れ
 - ・平成 25 年度に創立 30 周年を迎えるための準備
- (4) 昭和学院中学校 なし
- (5) 昭和学院秀英中学校 なし
- (6) 昭和学院小学校
 - ・幼稚園と連携した英語教育導入の準備（平成 25 年度から実施）
- (7) 昭和学院幼稚園
 - ・小学校と連携した英語教育導入の準備（平成 25 年度から実施）
 - ・平成 25 年度から導入の預かり保育の準備（平成 25 年度から実施）

2. 平成 24 年度生徒・学生等数の状況

(単位：人)

学校名	総定員	在学者数 (定員充足率)	入学定員	入学者数 (定員充足率)	H. 25 入学者数
昭和学院 短期大学	320	313 (98%)	160	180 (113%)	172 (108%)
昭和学院 高等学校	1,040	1,095 (106%)	360	418 (116%)	413 (115%)
昭和学院 中学校	432	410 (95%)	144	137 (95%)	128 (89%)
昭和学院 秀英 高等学校	820	988 (120%)	280	373 (133%)	334 (119%)
昭和学院 秀英 中学校	480	546 (114%)	160	191 (119%)	200 (125%)

昭和学院 小学校	480	470 (98%)	80	71 (89%)	73 (91%)
昭和学院 幼稚園	180	132 (73%)	60	53 (70%)	46 (77%)
合計	3,752	3,954 (105%)	1,244	1,423 (114%)	1,366 (110%)

3. 校舎・備品等の整備事業（主な校舎等の改修及び備品の購入）

昭和学院短期大学

トイレ等の改修工事 窓枠サッシ交換工事 教室用机、椅子の購入 実習室等の備品購

昭和学院高等学校 中学校

セミナー室改修工事 ロールブラインド設置工事 落下防止フェンスの設置

大町グラウンドの整備 南門脇三角地の舗装 駐車場等の整備 教室用机・椅子の購入

授業用備品の購入

昭和学院秀英高等学・校中学校

空調機の設置 教室及び職員室等の備品の購入

昭和学院小学校

トップライトカーテン取り付け工事 稼動間仕切り設置工事 楽器の購入

IT機器の購入

昭和学院幼稚園

教育用備品の購入（アップライトピアノ2台他）

4. 寄附募集事業

私学を取り巻く環境が厳しさを増している中で、「新しい公共」によって支え合う社会の実現に向けて、学校法人への寄附に対する税制が大幅に改善され、文部科学省からは、この制度を活用して寄附金の募集活動を行い、学校の経営基盤の強化に努めるよう通知があった。

このことに従い、本学院は、教育の一層の充実を目的として「昭和学院教育振興資金」の寄附募集活動を実施した。

平成24年度の教育目標の達成と特色ある教育活動の成果について、

1. 昭和学院幼稚園

本幼稚園は生活習慣を身につけ、集団生活への理解と態度を育てるとともに、豊かな情操と創造力を養い、心身の発達を助長するよう教育します。特に、子どもをのびのび育て、体力を高めること、「やるべきこと、やってはならないこと」を判断できる道徳心を養うことに努めています。また、行事が子どもを育てると考えます。楽しいこと、うれしいこと、ひとつひとつの体験が子どもたちを成長させています。

25年度より英語教育、毎日5時半までの預かり保育を始めます。国際語としての英語を獲得できるようにプログラムを導入し、毎週5日間、毎日40分の英語を母国語とするネイティブの先生による英語教育の中で生きた英語に親しませていきます。また、夏休みも含めた預かり保育により保護者の方をサポートしていきます。

課外学習も充実させています。放課後の園舎内という安心な空間で展開される課外学習は、新時代における幼児・児童育成のための支援教育を形成するものです。

次世代を担う子どもたちの「知的能力の開発」や「体力の向上」、「文化・道徳教育」、「第二言語の獲得」という様々な面から教育を展開する中で、地域社会や保護者の方々からの信頼をさらに獲得し、安定的な経営を目指します。

2. 昭和学院小学校

小学校時代は、心の世界を広げ、自分の頭でものを考える基盤と習慣を養うことが大切です。自分の頭で考え、友達とともに考えを創り出していく楽しさを味わわせる授業が、全てのもととなります。

このため、教師の方でも、国語と算数を中心に授業研究を進め、教師の力量を高めるよう研鑽を積んでいます。

学校の中心部に位置する自慢の図書館は、本好きな子を育てるとともに、学習情報センターとして子どもの学びを支えています。

英語学習は、25年度より1～3年生の授業時数を週3回と増やし、英語を母国語とするネイティブの先生による本校独自のカリキュラムにより更に楽しく学べ、英語コミュニケーションスキルを向上させる計画です。また、電子黒板などの教育機器の活用により、子どもの好奇心や意欲を高め、理解を深めています。

正課授業に加え、課外授業にも力を入れ、放課後の教育も充実を図っています。英語教室では、生きた英語に親しませ、国際化の時代に活躍する子どもたちのコミュニケーション能力の開発を目標としています。24年度より開始した夏休みの希望児童参加のオーストラリア研修は、平成25年度に第2回を行う予定です。

また、保護者の科学への関心が高くなっており、月1回の理科実験教室、夏の理科宿泊学校も好評です。自然界には様々な驚きや不思議、感動があふれています。それは、子どもたちの気持ちを動かす力になります。そして意欲を引き出すきっかけになっています。

その他、日本文化に根差した茶道、体力育成の体操・水泳・バトン、情操を育成する絵画教室などは、子どもたちの健全育成の助けになっています。

高い学力とやさしい心の育成を目標に、温かい人間関係を作り、子どもたちを教育してまいります。

3. 昭和学院中学・高等学校

現代は、「知識基盤社会」の時代と言われています。新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要視されています。

今日の情報化社会にあっては百科事典的な知識はインターネット等を通じて誰でも簡単に手に入れることができますが、大切なことは、手にした知識や情報を取捨選択し、それらを真に「生きた知識」として、自分のものとし、独創性や問題解決に活かしていけるかが問われているのです。これからの時代を担う子どもたちには、そういう意味での「生きる力」が求められているのです。建学の精神の『明敏謙讓』の『明敏』とは活力をもって未来を拓くこと。『謙讓』とは英知をもって社会に生きること。」と解釈し、真に生きる力を持った個性豊かな人間の育成を目指しています。

知・徳・体のバランスのとれた全人教育を目指し、学習環境を整え、日々の教育実践に取り組んでいます。

ア. 教育の目標と実践

①時代の変化の中で、一人ひとりの生き方を豊かなものにしていく学び、進路実績の向上。

②人の気持ちを察することのできる、思いやりのある人間の育成。

③「文武両道」のさらなる発展、スポーツ、文化活動における全国での活躍。

(学習指導)

基礎学力・学習意欲の向上のために、基礎・基本的な知識を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの能力を育成しています。また、国際化に対応して広い視野と理解力を育む国際化教育を推進し、ALT と日本人教師によるティーム・ティーチング授業、実用英語検定試験への取り組み及びカナダでのホームステイ・語学研修等を実施しました。

(生徒指導)

思いやりのある心豊かな人間の育成を目指し、複数の教員で生徒ひとり一人を多角的に見守り、個性の育成と自己表現力の向上を図るとともに協調性や人間関係づくりの力を養っています。

(進路指導)

生徒ひとり一人の未来を考え、生き方を豊かなものにしていく学びを第一にきめ細かいキャリア教育により将来の目標を明確にし、目的意識を高め学習活動により希望の進路を叶えられるよう指導しています。

(課外活動の充実)

強い心と体を育み、心身のバランスの取れた人間となるよう指導・支援し、「文武両道」をさらに発展させ、スポーツ・文化活動における多方面での活躍を目指しています。

イ. 地域に信頼される学校づくり

地域への情報発信、地域の小・中学校との合同音楽会、通学路の清掃活動等を行い、地域に開かれた学校づくりを目指しています。

保護者や地域社会の声を学校運営に反映させるシステムづくりの促進及び自己評価による前向きな取り組み等により、評価と信頼を得てきました。

ウ. 未来を志向する教育環境づくり

2年前に創立70周年を迎え、「未来型創造キャンパス」が完成し、安心して安全な最新鋭施設・設備を完備しました。

危機管理におきましても教職員ひとり一人が危機管理の重要性を自覚し、日頃より意識を持って行動しています。

また、常に予防的措置を考慮し、全学的な避難訓練の実施、緊急時の必要備品の備蓄等を行っています。

エ. 進路・課外活動の実績

高校卒業時には、9割以上の生徒が進学しています。特進クラスでは、国立大学や有名難関私立大学の受験に臨み、大きな成果をあげています。

平成24年度の卒業生312人のうち、4年制大学に198人(63.5%)、短期大学に29人(9.3%)、専門学校に56人(17.9%)が進学し、就職が8人(2.6%)、その他が21人(6.7%)となっています。

課外活動は、高校ではスポーツ部門の新体操(高校総体第10位、高校選抜第7位、国体総合第6位、イオンカップ世界新体操クラブ選手権出場)、体操競技(高校総体出場、国体第5位)、水泳(全国大会出場)、バレーボール(全国私学大会出場)、バスケットボール(高校総体第3位、高校選抜優勝大会第3位)、ハンドボール(女子高校総体・高校選抜大会ベスト16)、ソフトテニス(高校総体第5位、全日本選抜大会出場)、バトン(全日本バトン選手権大会出場)及び文化部門の書道研究(国際高校生選抜書展入選)等が全国規模の大会で活躍しました。

中学校でも新体操、バスケットボール、ソフトテニス及び水泳は全国大会で、書道研究や吹奏楽は千葉県で優秀な賞を取る等活躍しています。

4. 昭和学院秀英中学校・高等学校

ア. 学校の概要

秀英高等学校は創立30年目を迎え、また中学校は28年目を迎えました。

本校は県内屈指の進学校として高い評価や信頼度を得ています。国公立や難関私立大学をはじめ有名4年制大学へ、現役進学率が80パーセント前後の実績を挙げており「入学してから伸びる学校」として認知されています。そのため、千葉県内をはじめとして近隣の都県及び帰国子女などの入学希望者が多く、また、在校生の兄弟姉妹や卒業生の子弟を入学させたいという希望者も多い学校です。

イ. 教育の目標と実践

校訓を「明朗謙虚・勤勉向上」とし「21世紀を支えリードする人間」の育成を目指し、「学力を高めること」はもちろんのこと、「人間力を磨き高める」というバランスのとれた教育を展開しています。

教育目標として、(1)学力の向上(2)進路指導の充実(3)正しい生活態度の育成(4)清掃美化の徹底(5)出席の奨励(6)福祉教育の推進(7)部・同好会活動の奨励の7項目を設定し、目標達成に向けて努力しています。

学力向上では、「生徒の自主的学習」を強化するとともに、教師側の「質の高い授業の提供」を心がけています。

人格形成の面では、「心豊かな人間性を育む」ことを目標に、学級や学年集団・部活動・諸行事の実施を通しての人間関係づくり、文化講演会・芸術鑑賞教室・福祉講演会・道徳の授業・清掃美化活動等多方面からの心豊かな人間性の養成を行っています。また、人間としての基本的な生活習慣づくりも、「自主性や主体性を大切にしたい」積極的な生徒指導を通して育成しています。

進路指導では、「進学実績の向上」を重点に、全職員が同じ気持ちで目標達成に向けて努力する「団体戦」と位置付けて、生徒個人にも学級等の集団にも指導を強化しています。特に生徒個々の志望実現に向けて、全学的に年間複数回の個別面接を実施し、生徒ひとり一人の願いや夢の実現のための指導・支援をしています。

ウ. 教育効果向上のための取り組み

教育効果向上ため、本校独自のシラバスを内容豊かで質の高いものとするよう毎年全教科見直しをし、その時々々の生徒の実態に合ったもので、しかもより高いレベルのものにするための改善を行っています。また、進学実績を上げるための「難関大学合格率向上委員会」を設置し、生徒個々の志望の実現と学校全体のレベルアップを図るためプロジェクトでの検討を行っています。

本校ではいわゆる「特進クラス」にあたる特別なクラスは設けていませんが、全学級が他校にある「特進クラス」と同等、または、それ以上の質の高い授業を実施しています。このような中で、個々の生徒の学力の定着や向上を図り、個々の生徒の学力を保証するための補習・講習を計画的に実施しています。

エ. 成果と課題

学力向上のバロメータとなる進学実績は年々向上し、国公立大学・早慶上理をはじめ難関私立大学への合格は確実に増加しています。また、そのような中で現役進学率も8割前後を保ち、県内トップクラスの実績を誇っています。今後は東大・京大をはじめとしたトップ校への合格者をさらに多く出すことを目標に努力し、指導していきます。

人間形成の面では、落ち着いた生活をしながら部・同好会活動や、生徒会活動に打ち込む生徒が多く、人間関係も良好です。平素の指導の結果、基本的な生活習慣は身につけてきていると考えられます。校内美化や環境整備も生徒の努力と、教師の率先した活動で成果を上げています。

オ. 危機管理

本校では約10数年前から全校生徒・教職員3日分の水・食糧等の備蓄をし、非常災害に備えています。また、全校生徒・保護者等への緊急連絡のための一斉メール配信や衛星電話を設置し、教職員には定期的に避難訓練を行い、災害時の救急救命の処置等できるよう訓練をしております。

昨年度から、更に十分な食料・飲料水・医薬物品・照明器具や発電機の準備、緊急トイレの設置等を行い、また、災害時の生徒の安全な帰宅計画等についても作成中です。

3・11の災害を教訓に、生徒の安全確保を第一に考えた準備や計画を進めています。

5. 昭和学院短期大学

ア. 教育効果向上のための取り組み

短期大学は、平成20年度に短期大学基準協会が実施する第三者評価を受け、「適格」と認定されました。第三者評価「適格」の認定は、本学の高等教育機関としての『質』が社会的に保障されたことを意味します。

平成24年度は、平成25年度に新しい基準での第三者評価を受けるために準備を進めてきました。今回の第三者評価では短期大学教育の「質の保証」を明確にするために学習成果の評価システムや評価結果を公開していくことが求められています。この結果を踏まえPDCAサイクルによりさらなる向上・充実を目指しています。

本学は、人間生活学科生活クリエーション専攻・こども発達専攻及びヘルスケア栄養学科を設置しています。

人間生活学科の教育目標は、「人間尊重の立場から人間生活を総合的に捉えることのできる人間育成をめざす」とし、「人間生活の基礎力」を「本質の理解」及び「生活基礎能力」の両面から学習することとしています。

人間生活学科生活クリエーション専攻では、生活者としての幅広い知識に基づきそれを生活づくりに応用する姿勢を身につけるとともに、問題の発見・解決に努める能力と豊かに備わった感性をビジネス社会の中で発揮することのできる人材育成をめざしています。そのために「専門知識」「論理的思考」「生活管理力」「就業力」を習得すべき能力として設定しています。

ファッションやフードの専門的な学習により、卒業と同時に取得できる資格（衣料管理士、フードスペシャリスト、教員免許（家庭）、及び「秘書検定」等の各種検定資格を活かし、平成24年度は、就職率100%を達成することができました。平成25年からはフ

ードコーディネーターの資格が卒業と同時に取得できるようになり、フード分野にもより充実し就職の選択肢が広がりました。

人間生活学科こども発達専攻では、人間の心身の発達について理解し、他者と関わる能力を身につけた保育者の育成をめざし、「専門知識」「使命感」「子ども理解」「構想力」「実践力」の習得を目標にしています。人間生活を理解できる保育者養成及び子育てを通じて地域貢献する専攻として存在価値を高めています。市川市の委託を受けて設置している子育て支援センター「昭和学院もこもこ・こどもセンター」は、地域の子育て中の方々にとって貴重な施設となっていて、学生にとっても地域の親子の活動に身近で触れられ、将来の保育者として生きた体験を積める施設となっています。さらに、こども発達では、平成25年度より定員を50名から60名に増員することと致しました。

ヘルスケア栄養学科の教育目標は、人の健康を食と栄養の面から支援・指導できる能力を持ち、健康増進・予防医療・福祉に貢献できる人材の育成をめざし、「使命感」「専門的知識・能力」「論理的思考」「構想力」「実践力」の習得を目標にしています。

平成24年度入学生からは、1学年80名の学生に対し3～4名の担任教員を置く学年担任制を取っています。これは、学生が自教室（ホームルーム）を持たない大学の環境のなかで、友人を作り易く、また自立心を育ててもらいたいとの考えからスタートさせたものです。また、大学祭の「真間祭」をはじめ諸行事では、1、2年生合同で作業を行い、学年を超えた学生間の交流の機会を持つようにしています。

キャンパス内では、Student First（学生第一主義）のもとに、少人数制を活かした教育や奨学金制度等による学生支援に力を注いでおり、また、キャリア教育プログラムにより高い就職実績に結び付けています。

奨学金制度については、その受給希望者が年々増加傾向にあり、各種奨学金制度の説明会の開催及び個別の対応等により、学業に対する経済的側面からの支援を行っています。

平成25年1月に台湾の実践大学と交流協定の調印を行いました。これを契機に、学生が相互に相手校を訪れて授業の見学や文化にふれ、交流を行うことを支援します。

イ. 地域等との連携

地域との連携を深め、教育機能の充実を図る様々な取組を行っています。市川市教育委員会と共催の生涯学習講座「いちかわ市民アカデミー講座」の開講、市川市からの委託事業としての「昭和学院もこもこ・こどもセンター」の運営は、短大という学校の施設内で福祉（保育）事業を行うシステムで全国でも珍しく、注目されています。

地域の食育の充実を目指した取組として、日本フードスペシャリスト協会と共催の「食と健康講座」の開催、市川市と「栄養教育協定」を取り交わしての、市川市内の小・中学校で教育実習や校外実習の実施等により連携を深めています。

さらに、地元諸団体との共催等により「回遊展 in 八幡」への参加、「市川市小学生朝食選手権」の開催、「地産地消オリジナル弁当メニュー作成」、「ドレッシング・ラベルデザインの共同開発」等を行いました。

また、附属栄養科学研究所では料理教室「笑顔一杯楽しいクッキング」を開催しました。